

2020 年南京記憶の旅

12月13日は南京大虐殺の開始日として、そして中国国家の追悼日として知れ渡る記念日になっています。世界から集まっていらっしゃるご友人を迎えることが大事で大変な仕事なので、例年（2014年から）の13日前後一週間、ほとんど記念館から一步も出られませんでした。その中、とくに11日と12日の二日は絶望と叫びたいほど忙しい時期でした。

だが今年にはコロナ禍の影響で一変、忙しいだったはずの三日間は休日になりました。人生には一度きりのチャンスと思って、記念日を前にして、南京市内に犠牲者記念碑を巡礼する旅をする決意をしました。

本来は16箇所を一日で回ると計画していたが、時間的には余裕があると確認しましたが、体力的にはギリギリ足りないと分かったから、計画を二つの半日に分けて実施しました。

皆様、写真と共に 2020 年南京記憶の旅を一緒に歩いて行
きましょう。（自分かカメラかが下手で、あまりいい写真が
取られなくてご容赦ください。）

初日朝 9 時頃、記念館の周辺の自宅から北上、揚子江に向かう途中
に渡った「三汊河橋」です。河の名前は南京市内の数本の川がここ
で揚子江と合流するからの由来で、北側に渡ったら昔の港区「下関」
のエリアに入るんです。背後には南京テレビ塔があって、曇りの一
日が始まります。



最初の目的地「挹江門記念碑」の隣に、ジョン・マギーと由縁のあ

る第十二中学校の校舎があります。イチョウと紅葉と緑木、信号待ちです。



「挹江門」記念碑が安置される「繡球公園」の南門に到着しました。「繡球花」は「アジサイ（紫陽花）」の中国語の花名で、公園にもたくさんの紫陽花に飾られますが、本来は紫陽花との関係がなく、明朝皇帝朱元璋が中国の伝統踊り「獅子舞」にちなんで、近隣の二つの山をそれぞれ「獅子山」と「繡球山」と名付けたからです。城門・城壁、そして埠頭に近い場所で、今の穏やかなと違って1937年当時は大変混雑な状態に陥ったと想像できます。



一：「繡球公園」の南門に入ってから徒歩3分ぐらい、城壁・松の木・菊の花束に囲まれる「挹江門記念碑」が現れました。13日の二日前ですが、民間の追悼式がもう始まっているんです。(注：話が長くなる恐れがありますので、記念碑の由来、碑文などの紹介は省略させていただきます。)



公園の北口から出たら、目の前に現れるのが城門「儀鳳門」です。
ちなみに「挾江門」は公園の南口のすぐそばにあって、並んでいる
二つの門がいずれも迫力満点の建物です。(一部は再建)



城門から西へ進み、揚子江埠頭へ行く途中、明朝の名人航海士「鄭

和」と由縁のあるお寺「天妃宮」、そして背景に朱元璋と関わる

「閶江楼」（楼といますが、実は南京の天守閣と言えるほどのお城です）が私の好きな所です。



二：揚子江の辺に到着しました。当時重要な港として今も渡舟の港で運営中の中山埠頭の付近には建設現場がたくさんあって、超高層住宅が何本も聳えています。実はこの建設現場の壁の裏側に「民国発電廠犠牲職員記念碑」が潜んでいます。（入れません）

昔の写真にご参考



先の建設現場の道路の向こうに、「民国首都発電廠旧跡公園」が数年前に作られ、揚子江を眺める絶好の展望台を設けています。まだ稼働中の中山埠頭から出航するフェリーも身近で見えます。



三：揚子江に沿って、旧跡公園から北へ二、三百メートルを進んだら、

中山埠頭記念碑に着きました。独特なデザインで南京の代表的な記念碑の一つです。並んでいる花束が来る人の気持ちを伝えています。



さらに北へ進み、昔の南京随一の大通り「大馬路」の遺構です。丸い屋根の古い建物は 1937 年の写真と同じだが、南京はすでにあの時代の町ではなかったです。下関が発展遅れる地域ですが、近年から土地開発が進み、昔の建物が果たして後世に残せるでしょうか。



四：中山埠頭記念碑から1、2キロぐらい離れる見つけにくいところに、「煤炭港記念碑」が道路の隅に隠れて、来る人も少ないでしょう。周辺の建設が年々進み、建物がほぼ取り壊され、人影がさらに少なくなり、寂しい記念碑なのでしょう。

五：煤炭港からさらに幕府山へ北上する途中、幻の「魚雷営記念碑」が安置される金陵造船廠の一つの入口が見えます。依然入れないですから、当分幻が続くでしょう。



六：平日には人影の少ない城北の幕府山の南端に到着した途端、路上の人が突然増えてきました。上元門「草鞋峡記念碑」の周辺に、

いくつかの小学生のグループが集まって、追悼式を行っているのです。

近くにある燕子磯小学校の生徒・保護者・先生の代表だそうです。



七：幕府山の北端に、山に築かれる「燕子磯公園」があり、「燕子磯記念碑」が山頂に置いています。着いた際、ちょうど小学校のグループに遭遇しました。ここまで登ってきて大変ご苦労様でした。



燕子磯の山頂展望台から揚子江を眺めます。



八：南京北端の燕子磯から次の「太平門記念碑」にたどり着くまで

はちょっと手間がかかりました。南京の一番大きい湖の玄武湖と一番大きい山の紫金山に挟まれている太平門遺跡のそばにあります。

花束がちょっと多いですね。



九：太平門からさほど遠くない南京市政府の隣に、「北極閣」という丘がありまして、麓のところに大きな「北極閣記念碑」が静かに眠っています。人影がほとんどいませんが、花束や千羽鶴が大量に置いてあります。



次の記念碑行くために地下鉄二号線の大行宮駅へ行く途中、「利済巷慰安所旧跡陳列館」に一旦立ち止まりました。記念碑ではありませんが、あの時の南京記憶と関係の深い場所です。



十：地下鉄二号線は南京市の東西を繋ぐ大動脈です。紫金山からも離れてはるかに東にある「仙鶴門記念碑」に初めて参りました。遠

いから最初の旅企画に入れてませんが、なぜか途中で優柔不断にな
って敢行しました。花束と小学生のメッセージカードが並んでいま
す。碑が二つあって、左側は碑名、右側は碑文です。



十一：仙鶴門から市内の西方面に戻って紫金山地域に入りました。
ここには中山陵や美齡宮など民国時代の有名な建物が軒並みで、南
京の一番有名な観光地として知られています。ちょっとわかりにく
いところに隠れるこの「東郊記念碑」をたどり着くお客様が多分少
ないですが、13日には一つの追悼式場として、道路を埋め尽くす
でしょう。



十二：紫金山を後にして、地下鉄で「城内」に戻ってきました。バックの城壁は「武定門」と言いますが、碑の名前は「正覚寺記念碑」というお寺の犠牲者を偲ぶための由来です。13日のイベントの横断幕が設置されている途中、小さな広場が菊の花で埋め尽くされています。





十三：二日目から旅再開して訪れた雨花台の周辺にある「普徳寺記念碑」です。雨花台は昔南京の南郊外なので、発展が市内より遅れています。現在は少しずつ開発していますが、「郊外」のイメージがあまり変わりません。記念碑は一つの台地に置かれて外から全然見えないので、以前は探していた時に結構時間がかかりました。横断幕と菊花が綺麗に設置されています。



十四：「普徳寺」から南へ進んで、功德園という霊園には、太湖石の「花神廟記念碑」があります。小学生数人と保護者が並んで、親が子供の追悼する様子を撮っています。宿題ですね。広場が狭いせいなのか、数年前から横にある霊園にもうひとつの大きな太湖石や犠牲者の名簿壁を立てて、大きな広場も設けられています。

(↓↓↓)



十五：市内に戻ってきました。南京大学構内にある洋式別荘はラーベさんが住んでいた家で、南京安全区難民キャンプとしても使われていました。今はラーベ記念館として開館しています。実は南京大学の中に、難民キャンプ犠牲者の記念碑が設置されていますが、コロナ対策の原因で無関係者が入構禁止となっていますから諦めます。



ネットで見つけた「金陵大学難民収容所記念碑」の写真（撮影者：趙傑）を借ります。金陵大学は、南京大学の旧称です。私がまだ現場にたどり着くことがありません。



南京大学を離れ、次の記念碑に着くまでには100段の階段を登らなくてはなりません。（車があれば別の入口から入れますが）



十六：五台山の山頂にある「五台山記念碑」です。五台山にはサッカースタジアムなどの現代スポーツ施設がずらりと並んでいて、南京スポーツセンター（聖地）のような存在ですが、この記念碑や当時の「日本神社」の旧跡も残されています。



現代的なスポーツセンターで青空トランプをやっている市民たちです。年寄りにとって必要なトレーニングは頭脳ですね。



十七：五台山の山から下りたら少し離れるところに、秦淮河を渡る橋の上に漢中門記念碑が現れました。すぐ道路の横にあるので、多分一番探しやすい記念碑でしょう。冬の黄昏が早いです、旅も残りわずか、急いで行きましょう。





十八：これもネットの写真を借りました。漢中門から近いところに「清涼山」という丘があります（南京市内の丘が多いですよ）。その名前にちなんで「清涼山記念碑」が「河海大学」の構内にあるのです。私がまだ行ったことないから行きたいのですが、大学は関係者以外の立ち入りが一年中禁止になっていますから断念です。デザインに鼎があるのがなかなか珍しいです。

十九：揚子江の南端に、「上新河記念碑」があります。市内からかなり離れたところですが、花束の量から見れば多くの人を訪れてきたようです。近年から揚子江の沿岸が歩道に改造され、歩行愛好者？たちが頻繁に碑の前を通りかかったのでしょう。（上新河の発音は「傷心河」と同じ。。）



二十：記念館に戻ったのはもはや夜になっています。最後の最後には、「江東門記念碑」に決まっています。構内には明日の式典の準備が整えており、入場は禁止になったから入口の外で一枚の写真のみです。



結び

大学構内の二つを含め入場不能の記念碑は四つを除き、公式認証される南京大虐殺記念碑の巡礼が終了しました。自転車+地下鉄+バス+タクシーで 100km を走ったのです。最近、「南京大虐殺をどう思いますか」という質問に躊躇しました。まずは「南京大虐殺はなんですか」を答える必要があるのでしょうか。そして、10年間働いている自分でも「南京大虐殺」を語る事が可能でしょうかと疑いました。

南京大虐殺は歴史だが遠くない歴史です。なので書物の

知識を得るより、「記憶」を持つことが必要なことでしょうか。直接歴史を体験して「記憶」を得ることができないですが、人証として被害者の証言を聞き取り、物証として戦争遺構に足を運び、「南京大虐殺」を自分自身の記憶になってから他人に説明する立場が成り立つのでしょうか。今の私はまだまだ足りないと実感しています。

これは、私の「どう思いますか」に対する答えでしょう。

2020年12月12日